



拡大学年会

火曜日（12日）の放課後、「第1学年拡大学年会」という会議が開かれた。1学年の授業を担当していらっしゃる全教科の先生方に集まっていただき、各クラスの授業の様子や課題を抱えている生徒などについてご報告いただく。そして、その情報を、担任ばかりでなく先生方全員で共有し、今後の指導に生かしていこうという趣旨の会議である。

13R に関しても、数名の生徒の名前が挙がって、中間検査の結果（例1：あり得ない点数をとった生徒 例2：解答欄に日比谷の考査にふさわしくない内容を書いた生徒、など）や、授業中の態度（例1：みんなが素晴らしいパフォーマンスの映像に感動しているのに一人「冷房寒〜い」などと身勝手な発言をしている生徒 例2：何度注意しても原則に沿わないセーターを着ている生徒、など）などが報告され、それに関連して、小テストや提出物の状況なども伝えられた。

*

誰にでも不得意科目はあるわけだし、高校最初の中間検査だから、油断していたり、取り組み方に失敗したりする生徒がどのクラスにも出てくることは、先生方は当然ご承知である。だから、単に「点数が悪い」といったことではこの会議の話題にはならない。「点数が悪い」背景に、さまざまな「課題」が想定されて、それに早めに対処した方がイイと考えられる生徒について、報告してくださっているのである。

ちなみに、13Rで名前が挙がった生徒に関しては、それぞれの授業担当の先生方から、「考査後に改善が見られる」「呼び出して指導した結果、態度が改まった」「小テストな

どがんばっている」といった報告も続いてなされたので、担任としてはホッと一安心といったことであった。

*

「進路のしおり」を配布した際、主な大学の「現役合格者数」と「実際に進学した数」を紹介した。慶応や早稲田の数字をみてビックリしたことだろう。せっかく合格したのにほとんど進学していない…ということは、さらなる第一志望の大学に合格している（あるいは、再度チャレンジする）からだろう。

そういう生徒はなにも「特別な」生徒ではない。普通に日比谷の授業を受け、普通に課題をこなし、部活もやり、行事にも熱心に取り組んでいる…そういったごく「普通の」生徒たちなのである。

ただ、大切なことは、「普通に授業を受ける」ということが、毎日できる範囲で予習・復習をこなし、小テストもコツコツと積み重ね、宿題やレポートをきちんと提出する、ということでもあるということだ。塾や予備校に通うと言った、何も特別なことはしなくてもよい、その代わりに、日常の目の前にある課題を、一日一日丁寧にこなしなさいということなのである。

今回の会議で話題になったのは、そういうことが出来ていない可能性がある生徒ということである。話題になった諸君は改善したとのことであるが、今回、たまたま話題にならなかったとしても、上述のことがきちんと出来ていないと思う人は、しっかり自分の生活を反省してほしい。一日一日の単純な積み重ねが、驚くべき結果へと結実するのである。